



中部電力

中部電力株式会社 グローバル事業の取り組み

2022年2月25日

グローバル事業本部の設置（2022年4月1日以降）

～2022年1月28日プレス発表～

2021年11月策定の「中部電力グループ経営ビジョン2.0」の成長戦略を実現していくため、新たな成長領域の一つである海外事業の強化・拡大に向け、2022年4月1日付で**グローバル事業本部**を設置。

グローバル事業本部内の組織（2022年4月1日以降）

戦略ユニット

東京オフィス

リーガル&ガバナンスユニット

ポートフォリオ・マネジメントユニット

ワシントン、ロンドン、ドーハ事務所

クリーンエネルギーソリューションズユニット

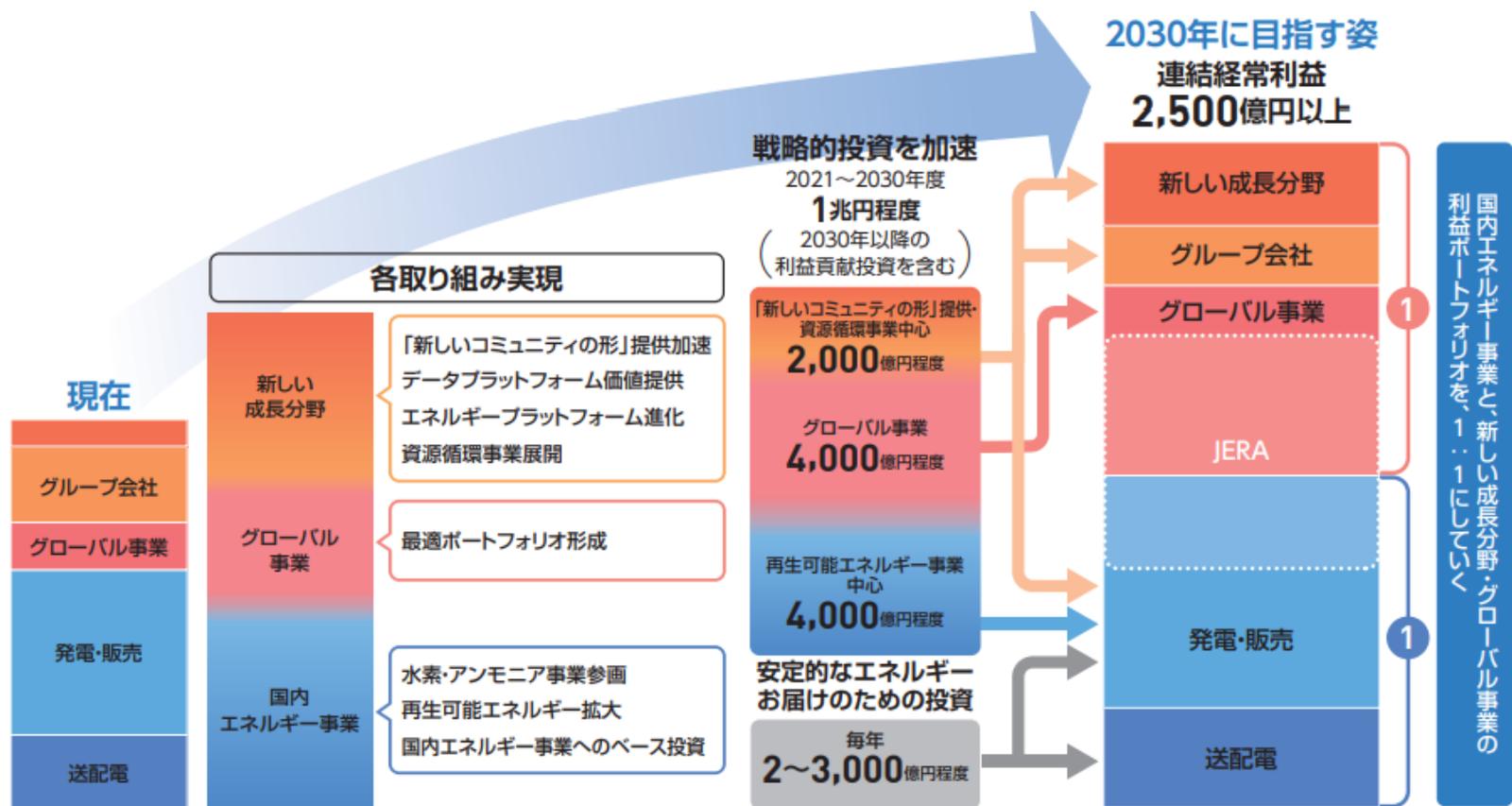
脱炭素ソリューションズユニット

コミュニティ&ソリューションズユニット

Enecoユニット

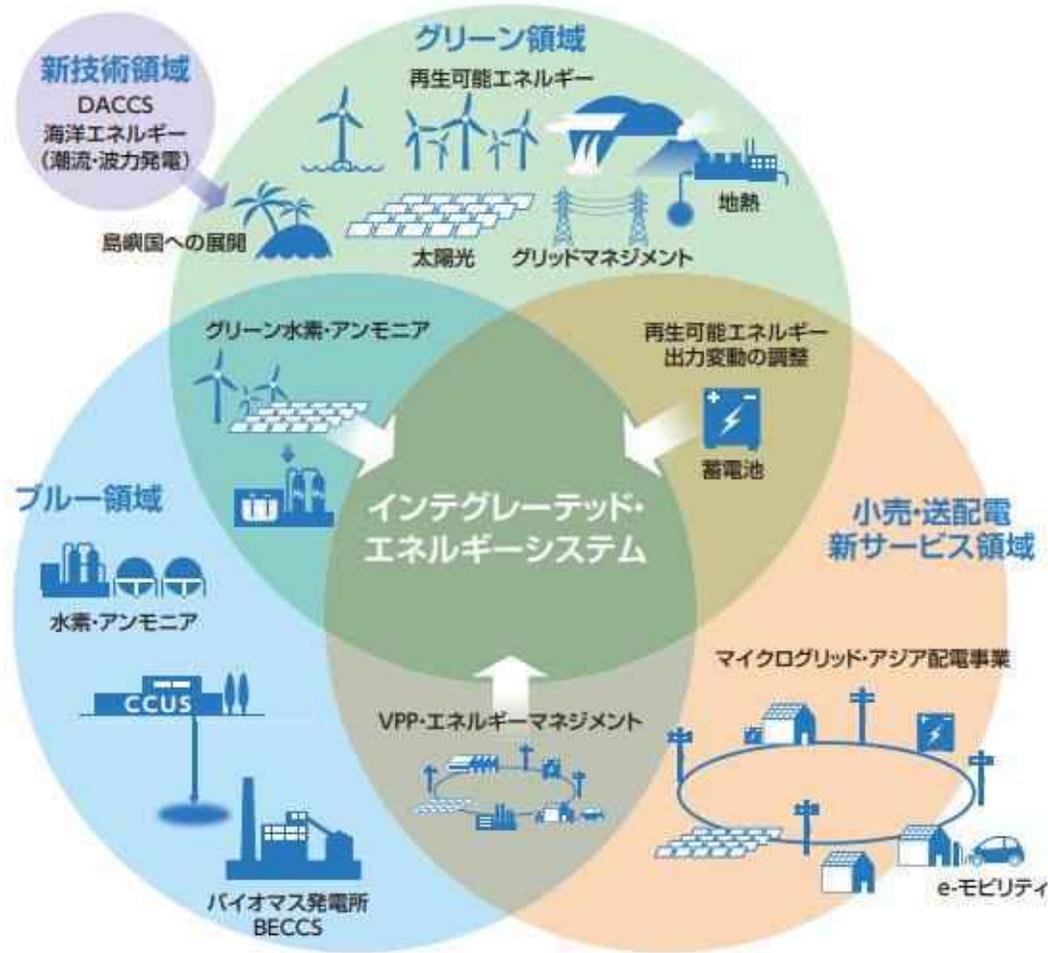
グローバル事業への戦略投資

- 中部電力グループ 経営ビジョン2.0（2021年11月公表）においても、グローバル事業を「成長分野」と位置付け、2021年度から2030年度までの間で**4,000億円**の戦略的投資を実施。
- これまで以上に「脱炭素」につながる事業への投資を拡大し、戦略的投資を加速することで収益基盤の強化と利益拡大を図っていく。



グローバル事業の位置付けと戦略

- グローバル事業（海外事業）では、4つのセグメント（グリーン領域、ブルー領域、小売・送配電・新サービス領域、新技術領域）を組み合わせ、最適なポートフォリオを形成し、欧州・アジア太平洋を中心とした脱炭素エネルギー企業を目指します。
- 脱炭素やコミュニティサービスの展開を促進し、その知見を活用するなど、国内事業とのシナジーを高めてまいります。



欧州



アジア



●地域別

| | |
|-----------|-----------|
| 欧州（ロシア含む） | 2,500億円程度 |
| アジア他 | 1,500億円程度 |

●領域別

| | |
|----------------|-----------|
| グリーン領域 | 2,500億円程度 |
| ブルー領域 | 1,000億円程度 |
| 小売・送配電・新サービス領域 | 500億円程度 |

ただし、案件次第で変化する可能性はある。

当社とJERAのグローバル事業分野



再エネ発電事業

送電事業

配電事業

小売・新サービス事業

海外コンサル事業

脱炭素関連事業



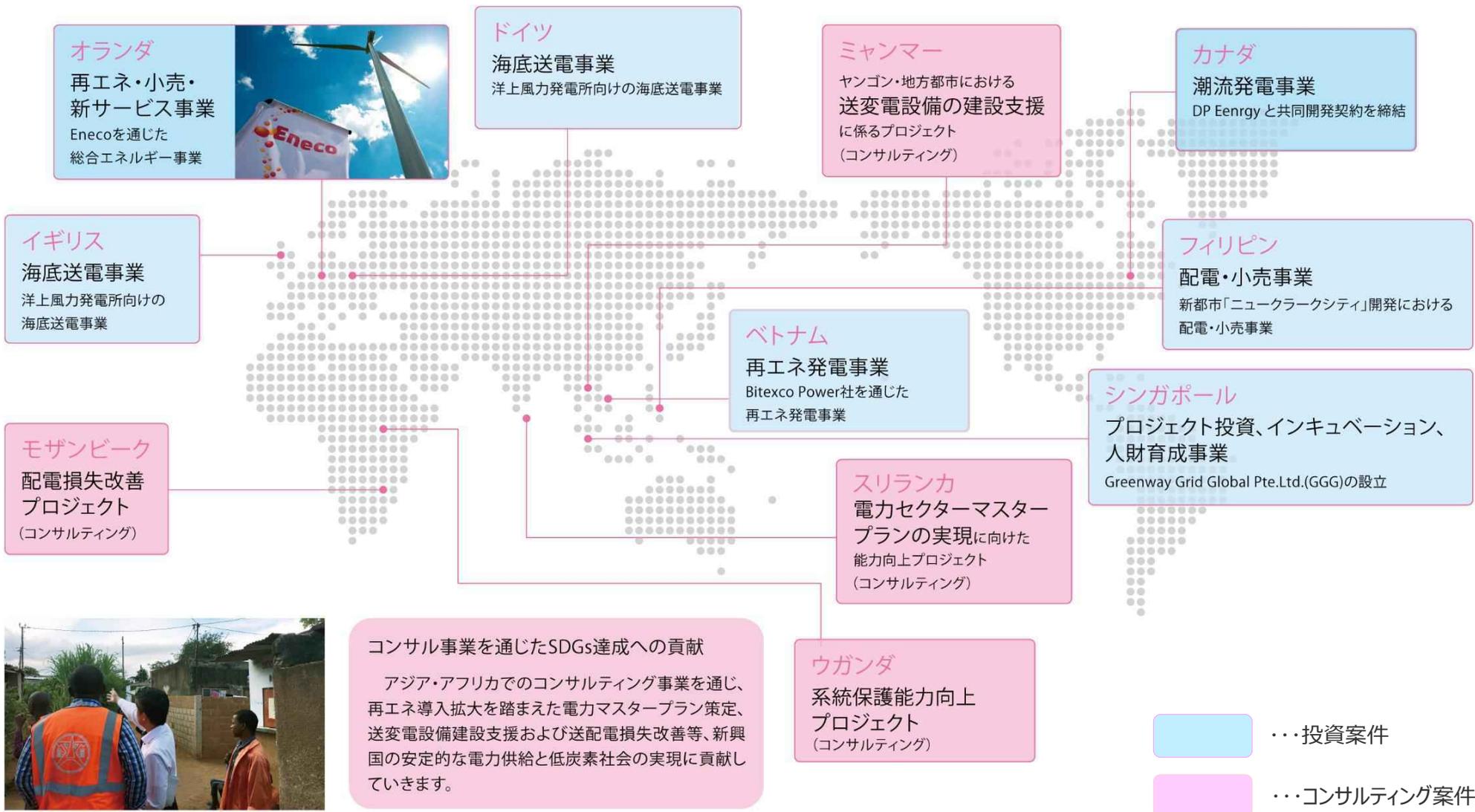
再エネ発電事業

火力発電事業

燃料事業

脱炭素関連事業

主なグローバル事業



モザンビークの配電損失改善に向けたコンサルティング

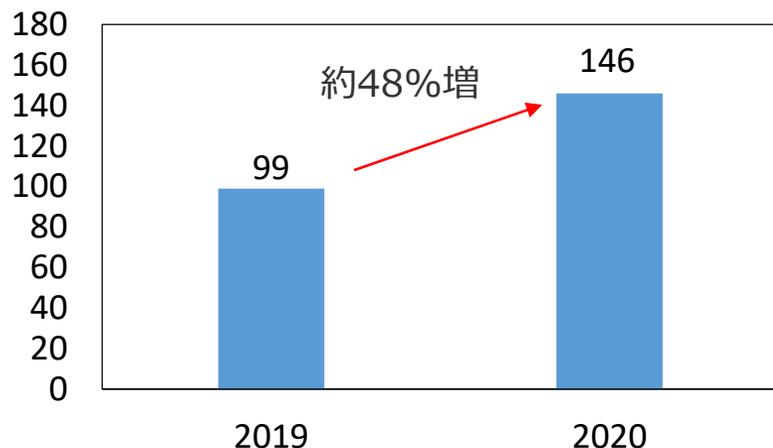
➤ Enecoを欧州戦略上のプラットフォームと位置付け、再エネ・小売・新サービス等の成長領域を拡大

案件概要

| | | |
|----------|------|---|
| 出資額 | | 41億ユーロ（約5千億円） 出資比率：三菱商事80%、中部電力20%（2020年3月出資） |
| Enecoの概要 | 事業 | 電力・ガス・熱供給の総合エネルギー事業 （年間電力取扱量約300億kWh、ガス取扱量約500億kWh(電力換算)、顧客口数約600万口） |
| | 地域 | オランダ、ベルギー、ドイツ等 |
| | 財務状況 | Eneco純利益（2020年末） 118百万ユーロ（約146億円 [※] ） 中部電力連結影響（2020年度）：1億円 ^{※2} |

※ 1ユーロ=125円換算 ※2 2020.12に、オランダでの法人税率引下げが撤回されたことにより、会計処理として、一時的な税金費用が発生

億円



- Enecoの2020年純利益は、コロナ禍による影響を受けたが、再エネ容量の増加や、契約数の増加などにより、2019年を上回る利益
- ただし、オランダで2021年からの法人税率引下が撤回されたことに伴う一時的な税金費用計上の影響を受けたこともあり、当社への連結影響はのれん償却後で約1億円

➤ Enecoによるクライメイト・ニュートラルの取り組み

Enecoは2035年までに温室効果ガスネット・ゼロを目指すことを公表
 当社はEnecoのチャレンジを株主として積極的に後押しする。

| | |
|------|--|
| ガス火力 | 既存設備は持続可能（カーボンニュートラルな天然ガスやグリーン水素）な電源に順次転換または閉鎖 |
| 再生電源 | 2025年までに持ち分容量を、現在（約170万kW）の約2倍の320万kWとする |
| 顧客向け | <電力供給> B2C：100%グリーン電力供給済み B2B：契約更新などに合わせて、2030年までにグリーン電力供給を目指す <ガス供給> ガス焚きセントラルヒーティング・ボイラーからヒートポンプや熱供給、水素対応のボイラーへと転換 等 |

➤ Enecoへの当社社員の派遣状況

- 小売事業における協業
 - ・ミライズのお客さまの在欧現地法人に対するグリーン電力販売およびルーフトップソーラー設置の提案
 - ・Enecoが実施するヒートポンプ事業のサポート
- 当社による設備O&Mノウハウなどの提供
 - ・火力発電所の設備効率向上に対する取り組み
 - ・運転中の熱供給設備の効率向上に対する取り組み

➤ 欧州におけるEnecoとの協業

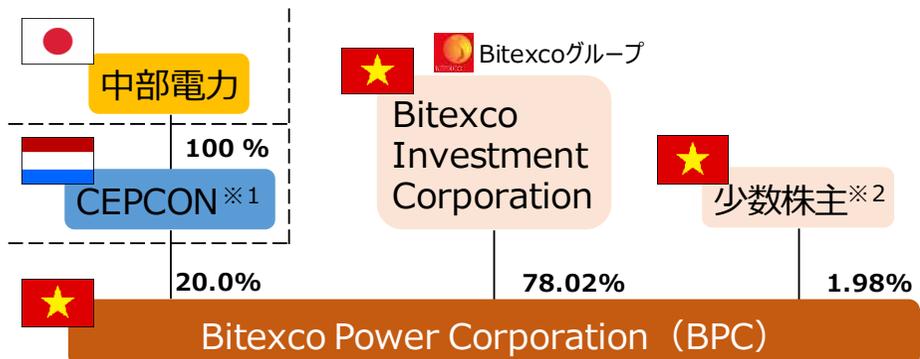
これまでは株主としてEnecoと競業してきたが、パートナーシップによる欧州での個別事業での参画を目指す

グローバル事業事例② 【ベトナム再エネ会社ビテクスコパワー社】

▶ ベトナムにおける電気事業の橋頭堡と位置付け事業を拡大

| | |
|--------|--|
| 事業会社名 | Bitexco Power Corporation (BPC) (2007年設立) |
| 本社所在地 | ベトナム社会主義共和国 ハノイ市 |
| 事業内容 | 再エネ発電事業 (現時点では水力と太陽光) の運営・開発 |
| 発電所数 | 水力発電所 21カ所、太陽光発電所 1カ所 |
| 持分発電出力 | 79万8,000kW (水力 74万8,000kW, 太陽光 5万kW) |
| 出資比率 | 当社 20%、Bitexcoグループ 80% |
| 売電方法 | 水力：ベトナム電力総公社 (EVN) との長期PPA 太陽光：FIT制度活用 (20年間) |
| 出資額 | 非公表 |
| 当社関与 | 当社より非常勤取締役 1名任命、技術者 1名派遣予定 |

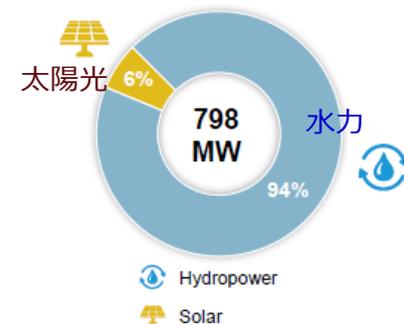
出資ストラクチャー図



※1 Chubu Electric Power Company Netherlands B.V. (CEPCON)

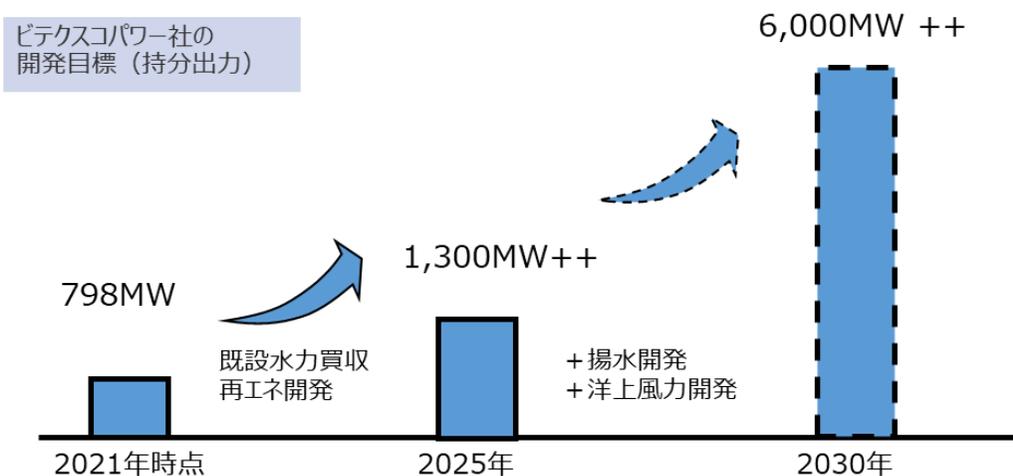
※2 Vu Quang Sang, Vietnam Leather and Footwear JSC

運転中持分容量
(2021年時点)



再エネ開発の推進

- 水力・太陽光発電に加えて、陸上・洋上風力と揚水発電の開発へ
- 二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism：JCM）活用による再エネ開発



再生可能エネルギーの供給

- 直接電力購入契約（Direct Power Purchase Agreement：DPPA）※
による再エネ電力の供給

ビテクスコグループとの協業

- エネルギー・脱炭素事業（グリーン水素製造など）
- スマートシティ開発など

※現在ベトナムで導入が検討されているベトナム版コーポレートPPA

グローバル事業事例③ 【カナダ潮流発電事業】

- 潮流発電の事業化に向け、川崎汽船株式会社およびDP Energy社（アイルランド）と共同開発契約を締結

| | |
|----------|---|
| 所在地 | カナダ・バスコシア州ファンディ湾 |
| 開発スケジュール | 商業運転開始（COD）予定 1基目：2024年、2,3基目：2026年 |
| 事業期間 | 商業運転開始より25年間を予定 ※事業期間終了後タービンと基礎は撤去予定 |
| 発電容量 | 4.5MW |
| 発電設備 | 水中タービン発電機：オーストリアAndritz製 1.5MW x 3基 基礎：着床式トリポッド基礎 |
| 補助金 | カナダ天然資源省より、総額約30百万CADを受領予定 |
| 売電方法 | 商業運転開始から15年間：バスコシア電力へ固定価格（FIT）で売電 （各基それぞれ15年間）（530CAD/MWh（約43.5円/kWh）） |
| 系統接続 | バスコシア州の電力事業者（垂直統合型）である バスコシア電力の系統に連系 |

